

日中対照言語学会会報 (No.36)

2016年6月11日(土)発行

会報担当：続三義

加藤晴子

目次

1. 5月常務理事会拡大会議(2016年5月22日)議事録
2. 日中対照言語学会第35回大会(2016年度春季大会)開催
3. 2016年度会員総会

資料

- ① 新顧問・名誉会員・新常務理事、新理事
 - ② 2015年度決算表
 - ③ 2016年度予算表
 - ④ 中国支部活動報告
4. 2016年度冬季大会の開催に関する事項

※ 事務局より

1. 5月常務理事会拡大会議(2016年5月22日)議事録

日時: 2016年5月22日(日) 12:30~13:20

場所: 東洋大学白山校舎2号館16階スカイホール

出席者: 続三義、加藤晴子、王学群、高橋弥守彦、安本真弓、竹島毅、平山邦彦、時衛国、橋本幸枝、白銀志栄、呉川、白石裕一、石井宏明(敬称略)

【審議事項】

① 2015年度決算報告案

白石会計係から2015年度決算報告案が報告され、会員総会で審議することが承認された。

② 2016年度予算案

白石会計係から2016年度予算案が報告され、会員総会で審議することが承認された。

③ 会費について

続三義理事長より、現在、会員に郵便払い込み手数料が学会負担となる払込取扱票を送付しているが、今後、手数料会員負担となる払込取扱票を送付することが提案された。安本真弓常務理事から本年度はすでに手数料が学会負担となる払込取扱票を送付済みであることから、来年度から実施することが提案され、来年度から実施することが理事会で承認された。

④ 冬季大会

会場は例年通り大阪産業大学梅田サテライトとなった。続理事長より、前回の常務理事会の後、張黎常務理事より、すでに12月第4日曜日の25日の会場を確保しているとの連絡があることが報告され、12月25日(日)に学会の冬季大会が開催されることが承認された。

⑤ 特集号のテーマについて

3年に1度の特集号(2018年出版)について、高橋弥守彦常務理事より「日本語と中国語の副詞」というテーマが提案され、理事会で了承され、これを冬季大会のテーマとすることが承認された。

【報告事項】

① 学会誌18号の出版

安本常務理事より、学会誌の出版に関する報告があった。白帝社より、学会誌のページ数を200頁以下にして欲しいとの要請があったことから、これからは、掲載論文の本数を調整する必要があることが報告され、これから投稿規定を含め、調整していくことが了承された。

2. 日中対照言語学会第35回大会(2016年度春季大会)開催

2016年5月22日(日) 午前9時20分~午後5時00分、第35回大会(2016年度春季大会)

が東洋大学で開催され、全国からきた会員と講演者を含む 50 人ほどが参加した。東方書店様も出店をした。東洋大学高橋一男副学長が開催校を代表して挨拶され、学会の年次大会の当校での開催に心から歓迎の意を表され、そのうえで、東洋大学がスーパーグローバル大学作りのために進めている様々な取り組みを紹介され、大会開催の成功を祈られた。大会は予定通りにプログラムが順調に進められた。

3. 2016 年度会員総会

2016 年度学会の春季大会終了後、2016 年度会員総会が開催された。議事に先立ち、石井宏明氏を議長に選出した。総会のプログラムは次の通りである。

【報告事項】

1. 中国支部現況報告：潘均中国支部会長からの書面報告。
2. 2015 年度現在の会員数（院生会員の増加など）
3. 学会誌 17 号の送付及び 18 号の出版
4. 特集号・モダリティの出版及び送付状況
5. 2015 年 10 月ごろ、“漢日対比言語学研究（協作）会”のホームページのリフォームのため、相互リンクが完了。「中国語教育学会」にも相互リンクを打診。

【審議事項】

1. 2015 年度決算報告案
2. 2016 年度予算案
3. 2016 年度からの執行部 2015 年度第 4 回常務理事会で検討した、2016 年度から、現執行部の体制でもう 1 期務めるという提案の承認
4. 顧問推薦・早稲田大学教授鈴木義昭会員、名誉会員の推薦・大東文化大学教授鄭新培会員、中央大学教授大川完三郎会員
5. 新任常務理事の推薦、2015 年度第 4 回常務理事会で推薦のあった拓殖大学教授の平山邦彦会員と、2015 年度第 5 回常務理事会で推薦のあった愛知教育大学教授の時衛国会員を次期学会の常務理事に推薦する。並びに平山会員を 2016 年度からの学会誌査読委員長に推薦する
6. 新任理事の推薦、2015 年度第 4 回常務理事会で推薦のあった九州外国語学院専任講師の王慶会員を次期学会の理事に推薦する
7. 2015 年度第 4 回常務理事会で提案・承認を受けた、会計系の冬季大会への出向などを含む費用を追認する
8. 2016 年度冬季大会開催の予定
9. 2018 年度出版の学会の次の特集号
10. その他
会員総会にて、出席者の協力により、報告事項、審議事項の諸事項は順調に報告され、審議された。

資料

① 新顧問・名誉会員・新常務理事、新理事

(2016 年 5 月 22 日会員総会にて承認、敬称略)

顧問：鈴木義昭

名誉会員：鄭新培、大川完三郎

新常務理事：平山邦彦、時衛国

新理事：王慶

② 2015 年度決算表

日中対照言語学会2016年総会会計報告

1) 2015年度収支決算

(2015年4月1日～2016年3月31日)(単位:円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
前年度繰越金	1,239,964	1,239,964	0	学会誌制作費	150,000	150,000	0
年会費				学会誌編集費	40,000	40,000	0
一般会員	480,000	501,970(注1)	21,970	学会誌特集号制作費	150,000	200,000	-50,000
院生会員	60,000	64,320(注2)	4,320	学会誌特集号編集費	0	40,000	-40,000
中国支部	50,000	48,968	-1,032	ホームページ管理費	40,000	36,220	3,780
大会参加費				通信費	90,000	102,260	-12,260
5月大会	50,000	44,000	-6,000	事務管理費	20,000	16,245	3,755
12月大会	40,000	45,000	5,000	大会開催費			
				5月大会	50,000	53,857	-3,857
				12月大会	40,000	55,198	-15,198
				講演費	20,000	20,000	0
				常務理事会交通費	34,000	41,500	-7,500
				会計担当手当	20,000	20,000	0
				発送作業手当	20,000	20,000	0
				査読手当	10,000	10,000	0
				会計担当大阪大会交通費	0	30,000	-30,000
				予備費	150,000	0	150,000
				小計	834,000	835,280	-1,280
				次年度繰越金	1,085,964	1,108,962	-22,998
収入合計	1,919,964	1,944,222	24,258	支出合計	1,919,964	1,944,222	-24,258

(注1)一般会員の年会費の内訳は郵便振込み手数料の違いにより、4000円×24名、3920円×49名、3870円×47名となっています。さらに2014年度分(4000円×7名)、2013年度分(4000円×1名)となっています。
 (注2)院生会員の年会費の内訳は郵便振込み手数料の違いにより、2000円×16名、1920円×8名、1870円×8名となっています。さらに、2014年度分(2000円×1名)となっています。

監査報告

監査の結果、2015年度決算報告は適正であることを認めます。
 2016年5月14日

監査 東京都羽江市駒井町1-40-5
 橋本幸枝 (印)

監査 茨城県龍ヶ崎市川原代町1220-3
 石井 宏明 (印)

③ 2016 年度予算表

2) 2016年度予算(案)

(2016年4月1日～2017年3月31日)(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
前年度繰越金	1,108,962	学会誌制作費	150,000
年会費		学会誌編集費	40,000
一般会員	480,000	学会誌特集号制作費	50,000
院生会員	60,000	ホームページ管理費	20,000
中国支部	50,000	通信費	100,000
		事務管理費	20,000
大会参加費		大会開催費	
5月 1000円×45名	45,000	5月大会	55,000
12月 1000円×45名	45,000	12月大会	55,000
		講演費	20,000
		常務理事会交通費	40,000
		会計担当手当	20,000
		発送作業手当	20,000
		査読手当	10,000
		会計担当大阪大会交通費	30,000
		予備費	50,000
		次年度繰越金	1,108,962
合計	1,788,962	合計	1,788,962

④ 中国支部活動報告

日中対比言語学中国分会
 ——2015 年度活动总结——

潘钧

2015 年度，中国分会一共举行了四次研究发表会。按照惯例，分别在一年中的 3、6、9、12 月举行，共有 8 位高校教师（包括高桥弥守彦先生）、在读博士生发表了自己的论文。涉及内容涵

盖了传统语法、语法化、语篇、词汇、词汇化、类型学等领域。每次研习会参加人数一般为二三十人不等，包括日本教师和学生。发表人认真准备，参与者热烈讨论，互动活跃，气氛良好，并且不断有新的会员加入，体现了大家对知识的渴望和对学术的孜孜以求，也展示了本分会的生命力和价值之所在。

中国分会自 2012 年底成立以来，迄今累积已举行了 14 次研究发表会，初步形成了自己的运营模式、核心队伍和一定的影响力，在国内日语界建立起了良好的声誉。参加活动的各高校师生们的意见反馈是，有这样一个学术平台，使不同院校、不同学术背景的教师学生齐聚一堂，获得信息，交流成果，特别可贵的是每一位发表人可供发表的时间最多可以有 90 分钟（包含问答），这样可以有比较充分的时间讨论、互动，达到充分交流学习的目的，且到此来发表或听会的人几乎没有任何功利性，各抒己见，畅所欲言，这在当下国内日语学术圈实属难得，甚至可是说是绝无仅有。大家一致希望分会要克服困难，坚持办下去，并且越办越好。

提一点小的建议，每年都有一些分会会员向学刊投稿，请总会组织审稿时在坚持学术标准不降低的前提下，适当倾斜分会会员论文的通过率，这样可以更好地提高会员投稿的积极性，增强分会乃至整个学会的凝聚力和归属感，从长远看这对学会的发展也是大有好处的。

以下是本年度的发表题目和发表人信息一览表：

2015 年 7 月 4 日（周六）

「に」の文における働きかけの一考察 — 「N1 を N2 にする」等関連構文の文法化事例
を中心に — (北京日研中心博士生 浙江工商大学 张晓东)
間接話法におけるテクレル文に関する一考察——中国語と対応する立場から
(北京大学博士研究生 孙斐)

2015 年 9 月 12 日（周六）

单形体言語と多形体言語 (大东文化大学 高橋弥守彦)
日语形容词修饰语限制性与非限制性解释的优选规则 (北京科技大学 周彤)

2015 年 12 月 12 日（周六）

跨小句信息结构的语义关系与汉日关系从句比较研究 (北方工业大学 孙海英)
论汉语网络流行语中的日语借词 (北京邮电大学 李旖旎)

2016 年 3 月 19 日（周六）

语言类型学视角下的日语词汇化考察 (外交学院 张玉玲)
前置き表現とは何か — 命題とモダリティの角度から (北京大学博士生 徐园园)

4. 2016 年度冬季大会の開催に関する事項

日中対照言語学会第 36 回冬季大会研究発表の募集

2016 年度冬季大会は 12 月 25 日（日）、大阪産業大学梅田サテライトで開催されます。研究発表を希望される研究者・院生の皆様は 2016 年 9 月 30 日（金）までにテーマと要旨（500 字前後）を続三義（xu_sanyi@toyo.jp）、王学群（ohgakubun@toyo.jp）のいずれかまでお申し込みください。

事務局より

- 1) 学会の入会は、日中対照言語学会ホームページ上で随時受け付けています。ただし、申し込みができない場合は王学群事務局長（ohgakubun@toyo.jp）、または竹島毅常務理事（sisi@kkd.biglobe.ne.jp）までご連絡をください。年間会費は社会人 4,000 円、院生 2,000 円となっています。
- 2) 次号学会誌の原稿の締切は、例年通り 9 月末日とします。